

## 地方創生 10年の振り返り

1. 総合戦略の変遷
2. 10年の人口動向
3. 地方創生の取組例

# 1. 総合戦略の変遷

国は2014年に人口減少克服と地方創生を合わせて行うことにより、将来にわたって活力のある日本社会の維持を目指すため、「まち・ひと・しごと創生法」を施行



都道府県においても地方創生にかかる基本的な計画を定めることとされ、滋賀県では2015年に第一期総合戦略を策定し、その後、2020年に第二期総合戦略の策定を行った。

第一期 「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり 総合戦略」

計画期間 2015～2019年

第二期 「人口減少を見据えた未来へと幸せが続く滋賀 総合戦略」

計画期間 2020～2024年（※）

※ 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改訂、新たな「地域別将来推計人口」の公表、人口減少を取り巻く状況の大きな変化を踏まえて、令和6年(2024年)7月に総合戦略の改定を行った。

## 2. 10年の人口動向

人口目標 （各総合戦略において）

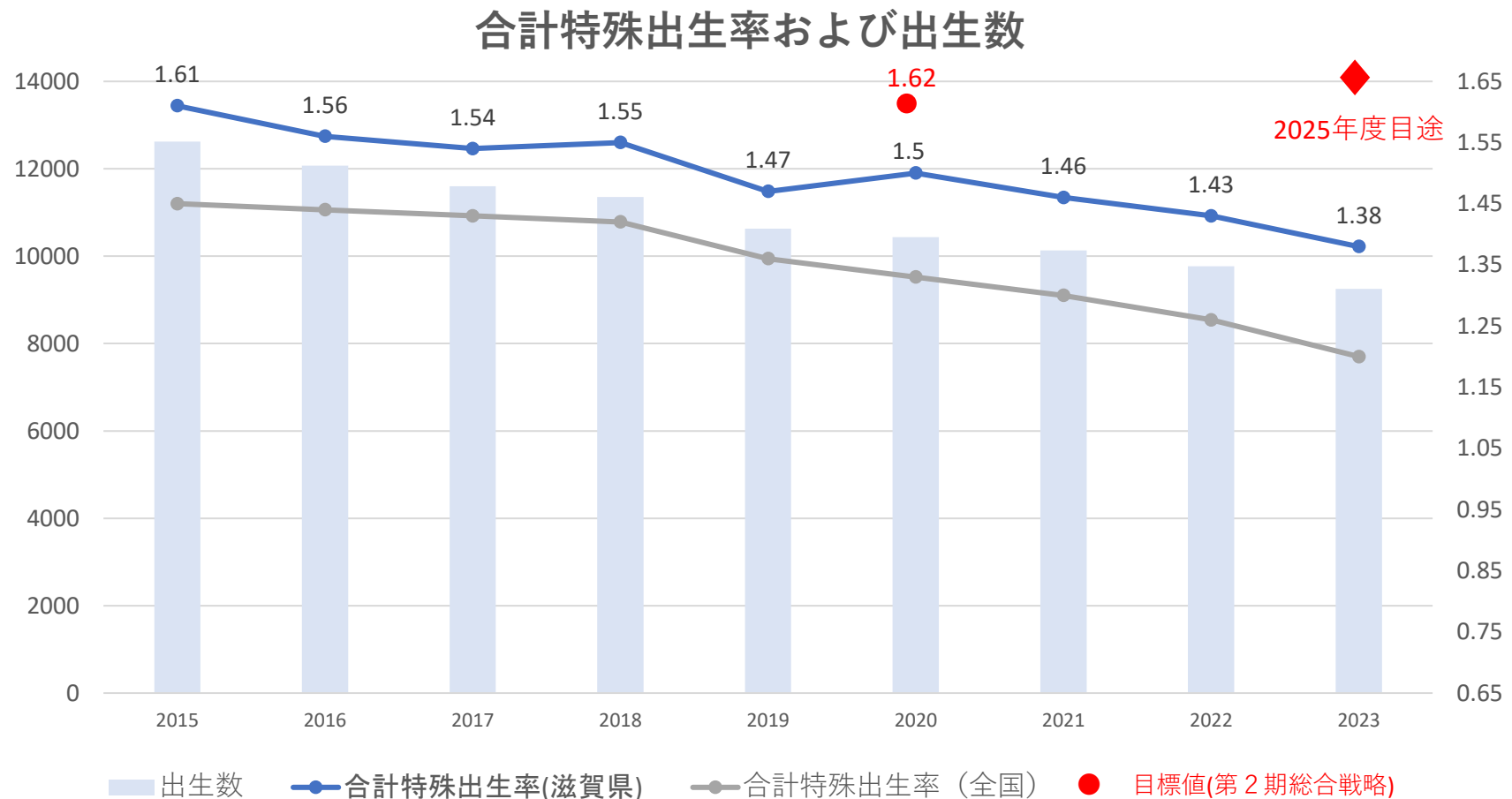
合計特殊出生率	第1期	2040年	:	1.94
		2050年	:	2.07
	第2期	2060年	:	1.8
社会増減数	第1期	20～24歳の社会増減を2020年にゼロに		
	第2期	県全体の社会増減が2025年に社会増		
総人口	第1期	2040年	:	約137万人
		2060年	:	約128万人
	第2期	2040年	:	約134万人
		2060年	:	約119万人

## 2. 10年の人口動向

### 人口実績（合計特殊出生率および出生数）

○ 2023年度の合計特殊出生率は1.38であり、2025年度を目途であった1.65から乖離

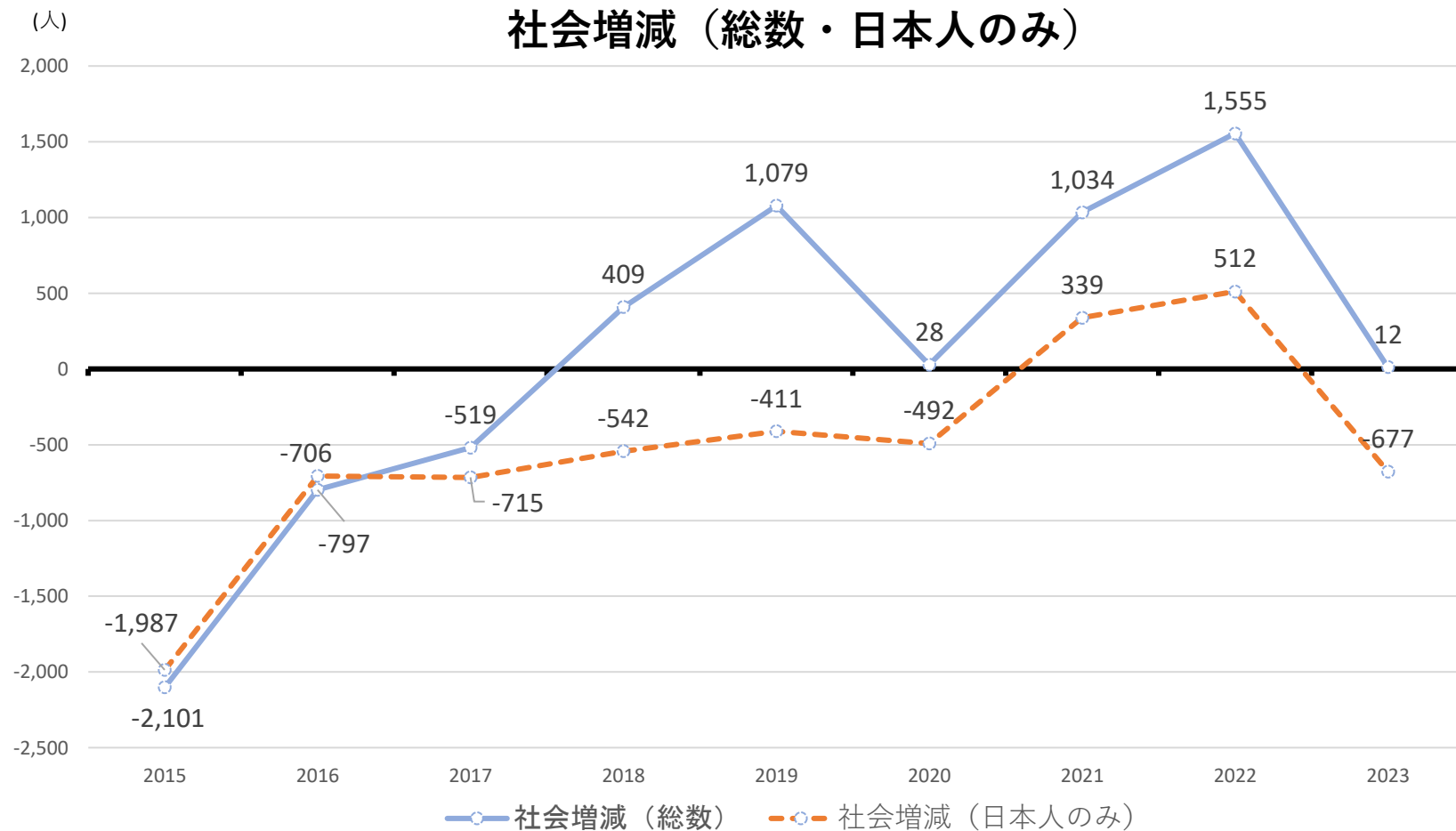
○ 出生数は2015年から減少を続け、2022年度から1万人を下回った。



## 2. 10年の人口動向

### 人口実績（社会増減）

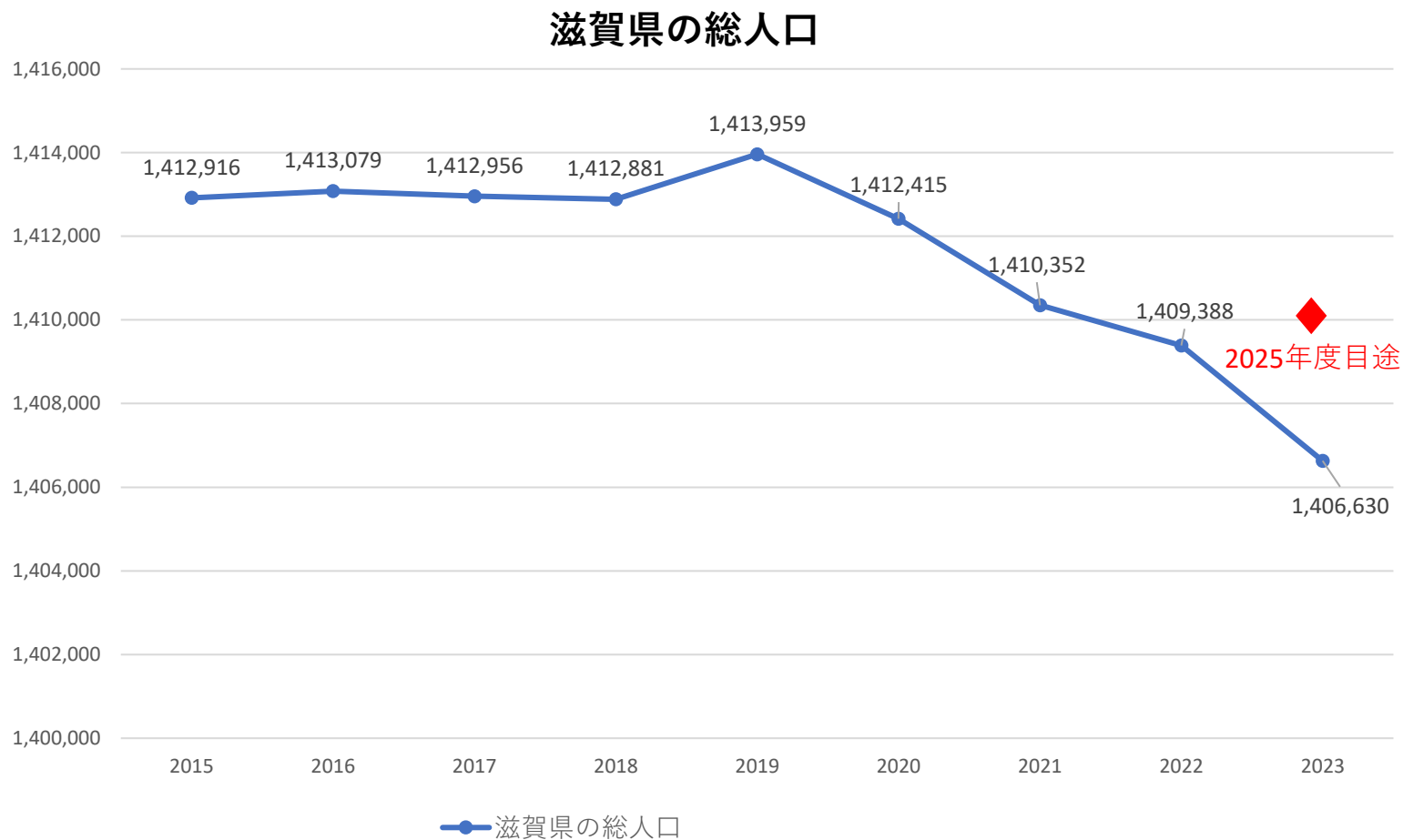
- 2021年に**社会増**に転じ、2022年に拡大したが、2023年に再び**社会減**となった。
- 外国人を含んだ社会増減については、2018年から**社会増**を続けている。



## 2. 10年の人口動向

### 人口実績（総人口）

- 2019年をピークに総人口は減少を続けている。
- 2022年時点で2025年度の目安である141万人と同程度であった。



### 3. 地方創生の取組例

**基本政策 1** 「みんなで応援する結婚・出産・子育てと人生100年時代の健康しがの実現」

#### 「子ども・子ども・子ども」 ～部局横断による子ども施策の推進～

- 子どもを真ん中に置いた社会づくりを推進するため、庁内の司令塔として、「**子ども若者部**」を新設し、庁内にまたがる各部局の「子ども」に関する事業に関して、横断的に連携
- 子ども・子育て施策推進交付金の創設や子どもの医療費助成の高校生世代への拡充を行う

#### 滋賀で家族になろう推進事業

出会いの機会創出のための仕組みづくりを行い、希望する人が結婚できるよう、社会全体で応援

#### しが・めぐりあいサポートセンター「しが結」

- AIを活用したマッチングシステムにより、結婚を希望する独身男女のめぐりあいを応援



### 3. 地方創生の取組例

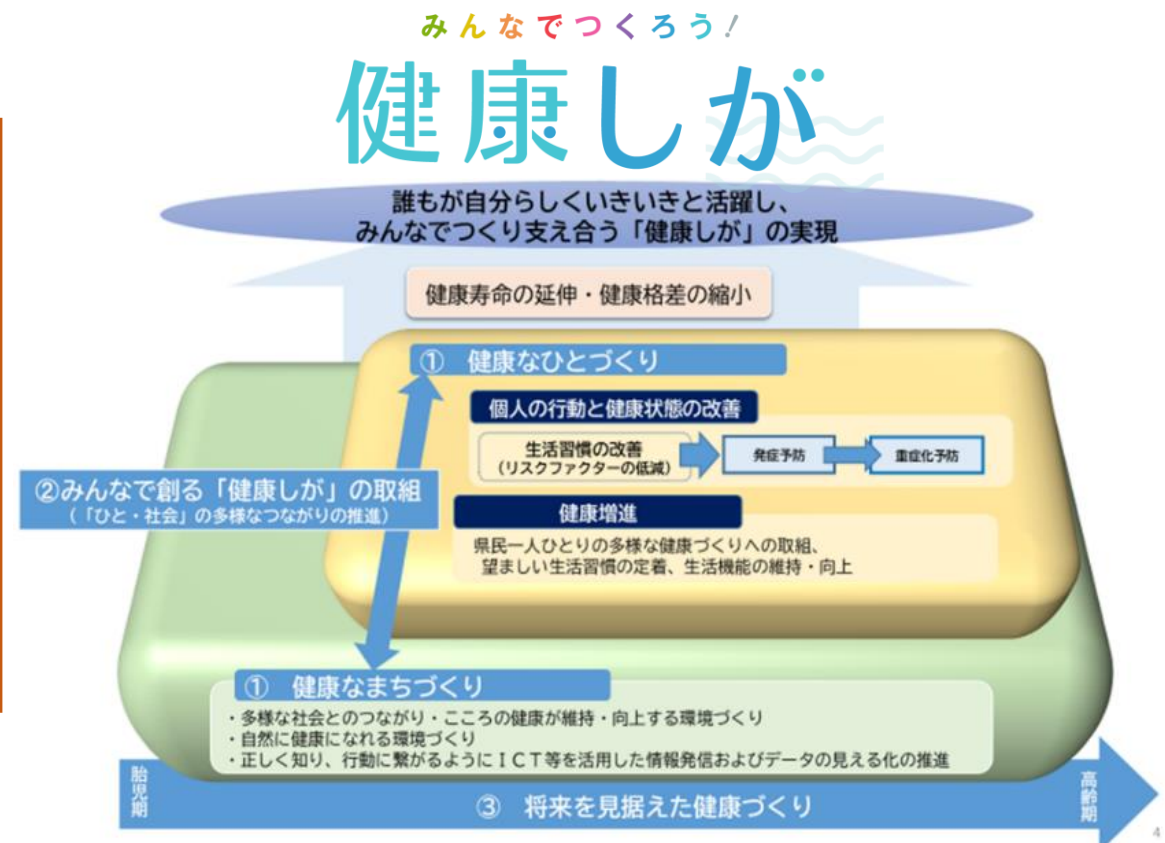
基本政策 1 「みんなで応援する結婚・出産・子育てと人生100年時代の健康しがの実現」

#### 三方よしの持続可能な健康寿命延伸プロジェクト

『誰もが生涯、自分らしく、「からだもこころも」健やかに、仕事や地域活動に取り組むことができるまち』を実現し、地域コミュニティと地域経済の活性化による地方創生を図る。

#### 「健康しが」共創会議

平成30年に立ち上げ、企業・地域団体・自治体等さまざまな団体が出会い、それぞれの取組やアイデアを持ち寄り、共有し、語り合い、協力関係を構築して、県民の健康づくりにつながる活動を創出していくことを目指すプラットフォーム





### 3. 地方創生の取組例

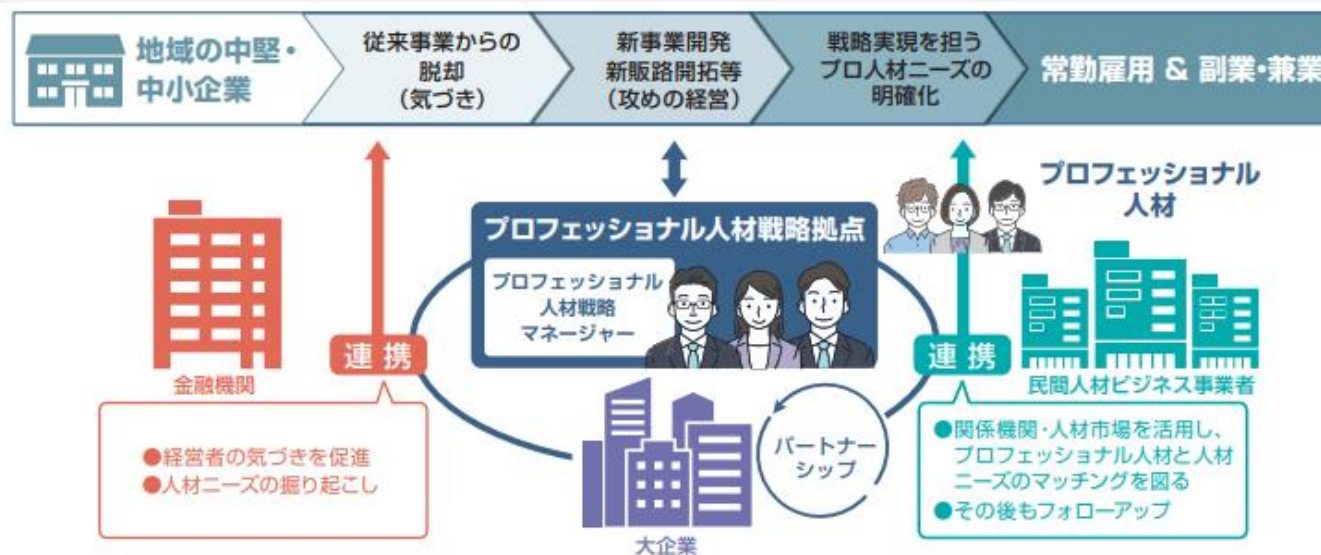
**基本政策 2** 「次代に向かう産業の活性化と多様で魅力ある働く場の創出」

#### 近未来技術等社会実装推進事業

「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県の実現に向け、「実証実験のフィールド 滋賀」をPRし、県内企業の技術力アップ等に繋げ、新たな事業化に向けた取組を促進し、本県産業および経済の発展を図る。

#### プロフェッショナル人材戦略運営事業

県内中小企業者の「攻めの経営」や経営改善への意欲を喚起し、都市圏からの「プロフェッショナル人材」の活用による企業の経営革新を実現を目指す。



### 3. 地方創生の取組例

**基本政策 2** 「次代に向かう産業の活性化と多様で魅力ある働く場の創出」

#### 滋賀の農業・水産業「人材活躍」プロジェクト

食と農を通じた「幸せ」の実現を目指し、農業・水産業の主体者である担い手・新規就業者の確保・育成を進めるとともに、農業・水産業と関わる人のすそ野の拡大を目指す。

#### 世界農業遺産「琵琶湖システム」

古くから営まれてきた琵琶湖と共生する農林水産業が「琵琶湖システム」として2022年7月に世界農業遺産に認定

- ・ 農林水産物のブランド化（高付加価値化）や生産振興
- ・ 地域資源を活用した観光産業の推進
- ・ 企業との連携などによる地域経済の活性化



琵琶湖と共生する農林水産業を健全な姿で次世代に引き継ぐ

### 3. 地方創生の取組例

基本政策 2 「次代に向かう産業の活性化と多様で魅力ある働く場の創出」

#### 多様な人材の就業創出プロジェクト

新事業・新分野に進出するなど成長・発展が見込まれる中小企業や地場産業等の人材不足に対応することで、経営力の向上や企業の稼ぐ力の向上による地域の経済発展につなげるとともに、地域における多様な人材の活躍と共生社会の実現を目指す。

##### しがジョブパーク

若者を対象に相談から就職、定着までのきめ細かな就労支援を実施

##### 滋賀マザーズジョブステーション

出産や子育てによる離職後、再就職を希望する女性などを対象に、個別相談、無料託児の実施、職業紹介などをワンストップで提供

##### シニアジョブステーション滋賀

中高年人材を対象に就労意欲の喚起、個別相談、職業紹介までワンストップの支援を実施

### 3. 地方創生の取組例

#### 基本政策 2 「次代に向かう産業の活性化と多様で魅力ある働く場の創出」

#### 滋賀県立高等専門学校の設置に向けた準備

今後、社会が変化していく中であって、将来にわたり競争力のある力強い産業を創出し、持続的に発展していくため、専門的技術を用いて価値創造ができる実践的な高度専門人材を育成するため、県立高等専門学校を設置する。

#### ●令和10年4月開校予定

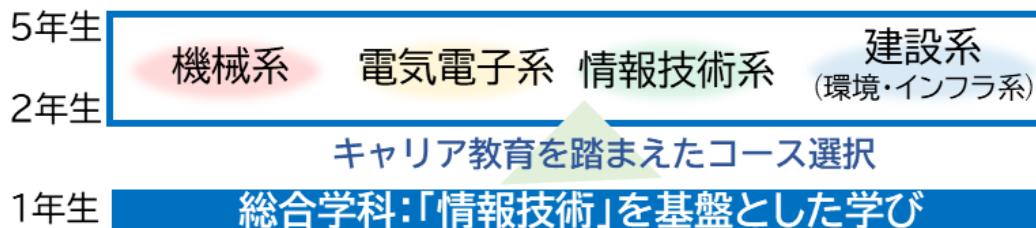
・ JR野洲駅まで

- ・ 大阪駅から 60分
- ・ 京都駅から 30分  
(新快速)

- ・ 定数120人/学年  
(2年生以降は  
各コース30名程度)



#### ●1 学科4コース編成



#### ●設置目的

- ▶ 滋賀発で次代の社会を支える高度専門人材の育成
- ▶ 技術者の育成・交流のためのハブとしての地域産業・社会への貢献

#### 滋賀県立高専の特長

- ・ 基礎的な技術力や科学的知識を重視
- ・ 学年・コースの枠を超えたPBL(課題解決型学習)や低学年からのインターンシップなどにより専門性と実践力を育成
- ・ 産業界、学術機関等との連携・共創を重視

### 3. 地方創生の取組例

基本政策3 「様々な人々が集い、琵琶湖と共生する魅力的な滋賀づくりと次世代への継承」

#### 「シガリズム」推進プロジェクト

滋賀ならではの地域資源を有効活用し、地域経済の活性化につなげ、自然環境や歴史文化等の保存と活用の好循環を図り、地域住民との交流を通じ、何度も滋賀を訪れる滋賀ファンを増やすとともに「訪れてよし、住んでよし」の地域づくりを行う。



滋賀を深く体験、体感できる  
滋賀ならではのコンテンツの創出・PR

県内各地の価値ある資源を再発見・再評価し、滋賀を深く体験・体感することができる滋賀ならではのツーリズムをシガリズムとして推進し、地域が一体となって滋賀の魅力を伝える。

#### 国際観光の推進

訴求力の高い観光素材の磨き上げや  
インバウンド誘客のためのPR等を実施

#### 観光人材の育成

地域の観光資源を活用した旅行商品を創出し、各地域の観光地経営を担う人材の育成に取り組む。



### 3. 地方創生の取組例

基本政策3 「様々な人々が集い、琵琶湖と共生する魅力的な滋賀づくりと次世代への継承」

#### 「デジタルプラットフォームを活用した関係人口拡大事業」

デジタル技術を活用した体験価値の提供を行い、全国の「地方に関心を寄せる方々」を効果的に本県に誘引し、新たな関係人口の創出や移住の促進につなげることを目指す。

#### デジタルプラットフォームの導入

滋賀県や市町等が実施する地域づくりや地域活性化に関するプロジェクトやイベントを集約し、全国に向けて滋賀県として一体的に発信

#### デジタル地域コミュニティ通貨の導入

デジタル地域コミュニティ通貨を通じて、地域を訪れる・巡る人を増やし、地域内外の人が楽しみながらつながりを深める。



# ビワコ

 まちのコイン 滋賀で広がっています！

お手伝いして、ありがとうって言われた。近所に顔なじみがふえた。

常連さん限定メニューが食べられた。自分のまちにちょっとくわしくなった。

環境にいいこと、気軽にできた。

ひと・まち・地球にうれしい体験、たくさん。

「まちのコイン」で、お金で買えないしあわせがあふれるまちへ。

### 3. 地方創生の取組例

基本政策3 「様々な人々が集い、琵琶湖と共生する魅力的な滋賀づくりと次世代への継承」

#### 社会インフラとしての地域モビリティのあり方検討

あらゆる輸送資源の活用や路線バスとデマンド交通の再編、DXの推進等により、地域特性に応じた交通軸と交通網からなる持続可能な地域交通ネットワーク構築につなげる。

#### 滋賀地域交通ビジョン策定（2024年3月）

人口減少社会を見据え、

「誰もが、行きたいときに、  
行きたいところに移動ができる、  
持続可能な滋賀」を目指す

SHIGA  
SMART  
ACCESS  
2040s

2024年度～

- ・ 県内6地域でワークショップを開催
- ・ 地域特性に応じた交通手段の検討と財源のあり方について、県民との対話を通じ公論熟議で検討

#### 実証実験

①幹線路線バスのダイヤ・路線の変更、バス停新設



②バスが土日祝限定で1日乗り放題になる乗車券販売



③小中学校の校外学習や部活動での路線バス利用



④高校生の通学支援のための、バスとデマンドタクシー共通定期券・回数券



### 3. 地方創生の取組例

基本政策3 「様々な人々が集い、琵琶湖と共生する魅力的な滋賀づくりと次世代への継承」

#### 「やまの健康」推進プロジェクト

森林・林業・農山村(=「やま」)を一体的に捉え、琵琶湖を取り巻く森林・農地が適切に管理されるとともに、農山村の価値や魅力に焦点を当て、地域資源を活かしたモノ・サービスなどによって、経済循環や「やま」と県民全体との関わりをつくることで、農山村が活性化している姿を実現する。

#### 「やまの健康」モデル地域

県内5つの地域をモデル地域として選定し、「やまの健康宣言」に基づく地域住民の取組を支援

- ・ 大津市葛川地域
- ・ 米原市伊吹北部地域
- ・ 栗東市金勝地域
- ・ 甲賀市大原地域
- ・ 高島市南深清水地域





### 3. 地方創生の取組例

#### 集中的な取組 「県北部地域の振興」

県内で先行する課題への対応、地域事情を踏まえた振興、北部における様々な機会を活かした振興を進めるとともに、地域資源を活かした魅力ある地域づくりや未来を支える人材の育成などさらなる振興（北の近江振興プロジェクト）を推進する。

#### 北の近江振興プロジェクト

<目標>  
移住＋地域とつながる人(関係人口)を3千人増やす



地域資源や特性を活かして、5年間(R5～9年度)を重点取組期間とする振興策

①住み続けたいくなる  
還りたいくなる北部へ

②挑戦する若者が  
育ち・集う北部へ

③訪れたいくなる北部へ

#### 【総合プロジェクト】

県が分野・テーマを設定し、地域連携のもと取組を展開

#### 【特別プロジェクト】

総合プロジェクトに寄与し、相乗効果を生み出そうとする市の取組を支援

北部地域において取り組む多様な主体との連携・協働活動